

**The Design of Residential Space**  
**-through the three competitions-**

Department of Infrastructure Systems Engineering

1055133

Keishi ISHIDA

**Abstract**

In recent years, people's life-style is becoming rich variation and unique. And the group of living is coming out variously, for instance, the group of living with parents, lover, friends, and single life and so on. But, residential space cannot be expressed with "nLDK". In fact, it can be said that there are few choices for people. All and sundry has the same form. Moreover, in life, to buy a home, it is not a certain thing repeatedly. For this reason, people had better have attachment to a home and residential space after purchasing.

Therefore, in the master's design, it aims at the followings.

- The proposal of form, which becomes a choice in addition to "nLDK".
- The proposal of residential space, which can continue having attachment.

These purposes are proposed through three competitions.

**[KIRA-KIRA Box]** thorough Annaka-Haruna housing prize

The proposal of the house, which is not the purpose, only lives.

- KIRA-KIRA Box that an inhabitant can use freely is including into the house.
- A town become pleasant by KIRAKIRA-Box's beings

**[JINTORI GAME]** through the residential space design competition

The proposal of a division of residential space with a LIFE-Box.

- The space isn't partitioned with the wall and the door.
- Space can be customized so that he may like him.

**[VOID and MASS]** through the sumai\*machidukuri competition

The proposal of the town like "the yard in a city" whose people can find a favorite place with the combination of "void and mass".

- residential space the site in Okinawa City
- If it sees in wide sense, the degree of public of void will become high.
- Each dwelling unit can take in sunlight, a wind, etc. freely by the louver.

**Keyword:** nLDK, residential space, public, private, void, mass, customize, attachment, favorite place, KIRAKIRA-Box, LIFE Box

## 修士設計要旨

### 住空間の設計

#### － 3つの設計競技を通じて－

社会システム工学コース 1055133

石田 計志

#### 目的・構成

近年、人々の生活の仕方がバリエーション豊かになり、暮らし方にも個性がでてきているように思われる。家族で暮らす人々、他人と同居する人々、一人暮らしする人など、生活する単位も以前よりずっと多岐である。

しかし、住空間は、nLDK といった形式でしか表せない状態であり、選択のバリエーションが少なく、どれもこれも同じようなかたちをしている。

しかし、家を買うということは、人生の中においてそう何度もあることではなく、一世一代の買い物である。また、買うという行為に至るまでには非常に多くの時間や労力を費やすのに対して、手に入れた瞬間興味の対象から外れてしまい、買ったままの状態であるという人々が多いというのもひとつの現状である。買った後も、もっと家に対して愛着を持つべきであるし、持って欲しいと考える。

そこで本修士設計では、nLDK 以外の選択肢となりうるべき形式の提案と、住みながら住空間に対してずっと愛着を持ち続けられるようなひとつの住空間の提案を行うことを目的としている。

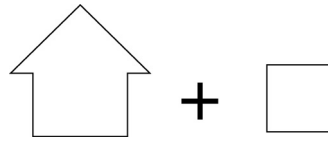
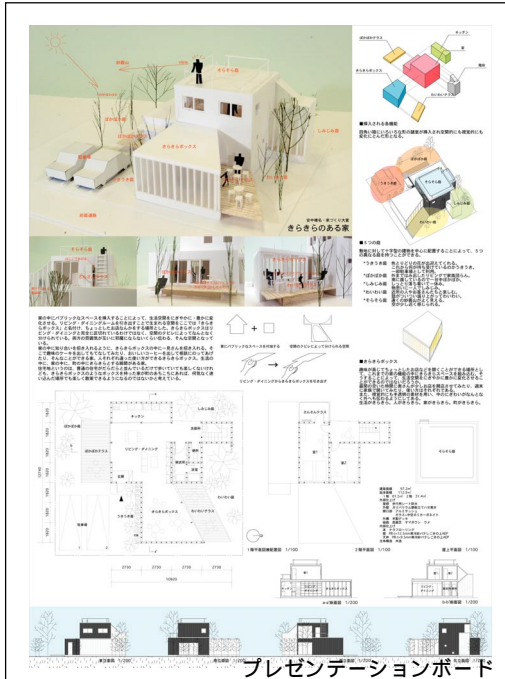
本修士設計は以下のような構成となっている。

1.では「安中榛名・家づくり大賞」(主催：JR東日本の新しい街づくり 未来図倶楽部事務局)を通じて戸建住宅における半パブリックな空間(「きらきらボックス」)を挿入し、住むためだけにない住空間の提案を行う。2.では「第1回住空間デザインコンペ」(主催：三井不動産・新建築社)を通じて、これまでのnLDKに加え、新しい選択肢となるような「ライフボックス」による住空間の分節化(「JINTORI GAME」)の提案を行う。そして、3.では「第20回すまい・まちづくり設計競技」(主催：まちづくり月間実行委員会・(財)住宅生産振興財団)を通じて、void(public)とmass(private)の組み合わせによって、それぞれの人がお気に入りの場所を見つけることが出来るような都市の中の庭となるようなまち(「みんなのにわがあるまち」)の提案を行う。最後にこれらの設計競技を通じて得られた住空間の独自性等について4.で述べる。

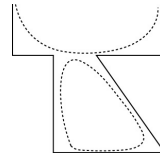
#### 「きらきらボックスのある家」 安中榛名家づくり大賞を通じて

この設計競技は、長野新幹線安中榛名駅前に東日本旅客鉄道(株)が計画している700区画の新しい住宅地に対して1戸建住宅の提案を求めるものである。

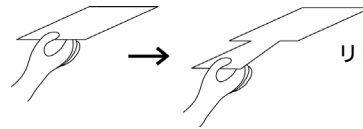
これまで、nLDK型と呼ばれる形式が住宅の一般解としてあり、多くの住宅はその平面によって構成されていた。だが現在の家族やそうでない人達の生活に合わなくなった部分があるのではないかと。人々のライフスタイルは多様化し、住むためだけを目的とした家では欲求を満たすことができなくなってきているのではないかと。そこで、住人が自由に使うことができる「きらきらボックス」(フリーなボックス)を挿入することにより、趣味の教室を開いたり、料理でおもてなしを行ったり、ギャラリーとして日々の成果を発表したりと、住むためだけでなく様々な活動が積極的に行われる家を提案する。



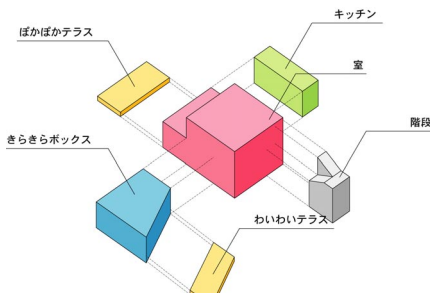
家にパブリックなスペースを付加する



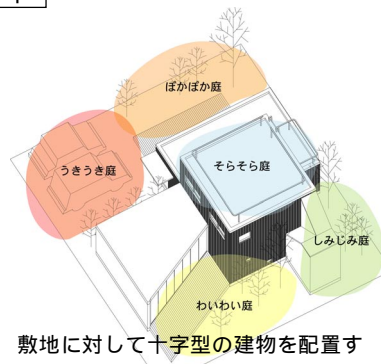
クビレによって分けられる空間



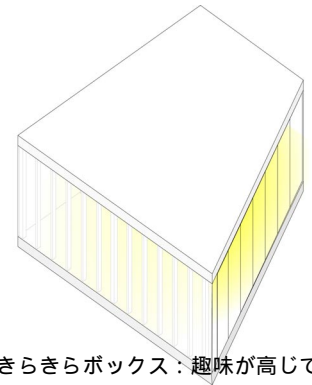
リビングおよびダイニングから引き出す



メインとなる居住空間に、長方形や台形などの形を挿入し空間的にも視覚的にも変化に富んだものとする



敷地に対して十字型の建物を配置することで性格の異なった庭ができる



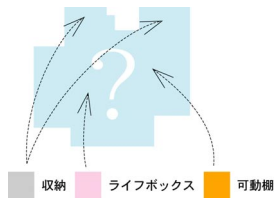
きらきらボックス：趣味が高じてちょっとした店等を開くことができる

### 「JINTORI GAME」 第1回住空間デザインコンペを通じて

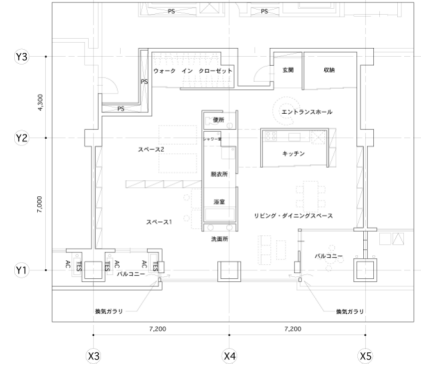
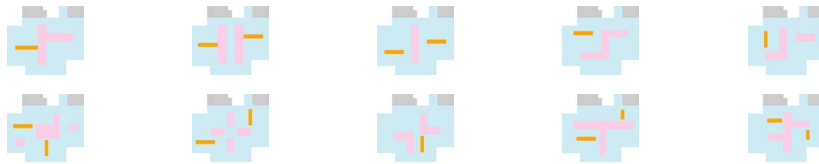
この設計競技は、いかに現実の生活を前提として「快適な居住空間」をつくり出すことができるか、単に装飾的であるものではなく、個人の嗜好性を生かしながらも誰もが快適に感じることができる住まいとは何かを広く求めるものである。

現在、建て売り住宅や賃貸住宅などではnLDKといった形式でしか表せない住戸がほとんどである。これでは性別も年齢も仕事も趣味も違う人々が同じような平面の住戸に暮らしているという奇妙な事態であると言える。また、自分のお気に入りのものがなかなか見つからず、仕方なくみんなと同じような部屋割りの住戸に住んでいるという人も少なからずいるはずである。最近、住空間に対して関心が高まってきており、自分の域的な空間をつくりたいと思っている人も多いようである。しかし、なかなか自分の思うようにはできないのが現実である。

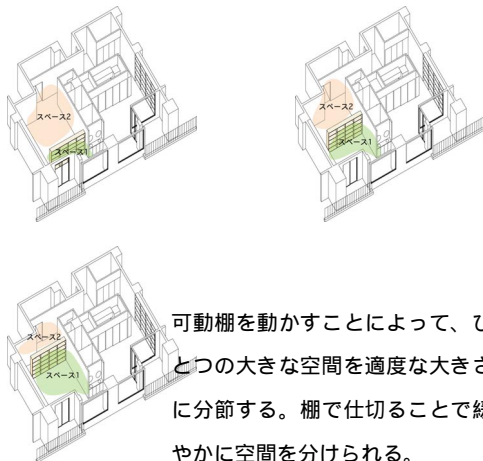
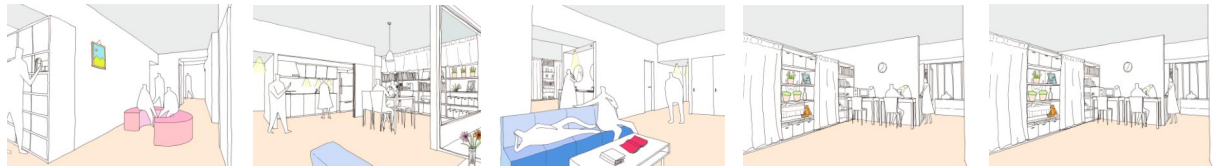
そこで、壁や扉などで空間を仕切り何々の部屋という風にはじめから決めてしまっておくのではなく、ライフボックスによる住空間の分節を行い暮らしながら家具などで自由に空間をカスタマイズすることができるnLDKに加え新しい選択肢となり得る居住空間を提案する。



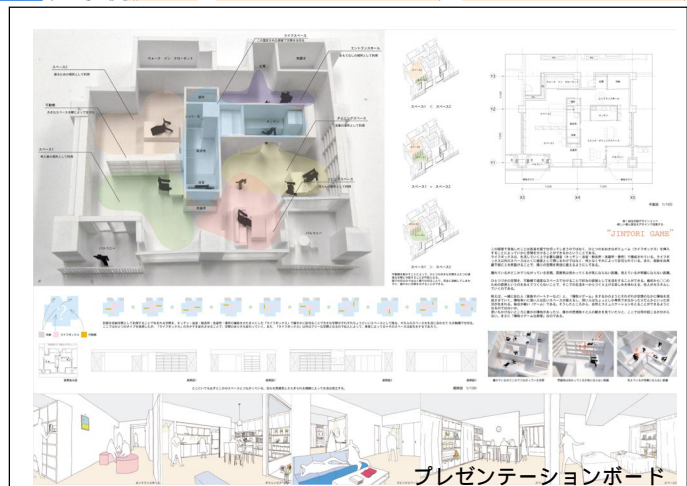
大きな空間にキッチン・浴室・脱衣所・洗面所・便所などの水回りをひとつのおおきなボックス（ライフボックス）に納め、それを広い空間の中心部に配置する。そうすることによって空間が何となく緩やかに区切られ、ちょうどいいスペースが生まれるのである。それらのスペースを生活に合わせて可動棚でじぶんの好きなように仕切り生活をしていくのである。



ここではライフボックスで分節した残りの空間を、エントランスホール・リビング・ダイニングスペース・スペース1・スペース2と表記しているが、これはひとつの使い方の例であって必ずしもこの形式になる必要はない。生活することによって徐々に変化する空間なのである。



可動棚を動かすことによって、ひとつの大きな空間を適度な大きさに分節する。棚で仕切ることによって緩やかに空間を分けられる。

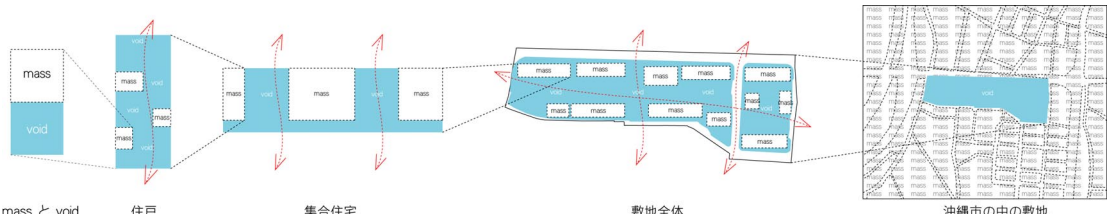


### 「みんなのにわがあるまち」 第20回すまい・まちづくり設計競技を通じて

この設計競技は、課題地を含む43.9haの区域が土地区画整理事業として都市計画決定され、課題地周辺区域では都市基盤整備が終了したが、課題地（4.0ha）だけが残されたかたちとなり建物の建替えが行なわれず住宅等の老朽化が進んでいる。しかしこの区域全体は沖縄市きっての集客エリアで、商業地域としてポテンシャルの高い地域であり、残された課題地の整備は沖縄市の緊急な課題である。このような状況を踏まえ、複合商業施設及び住宅の具体的なアイデアを求めるものである。

これまでの集合住宅や団地などは、ヴォリュームとして非常に大きく外観もどれも同じような形式をしているので遠くからでもすぐにそれだと認識することができる。そのシンボリックな点を逆手に取ることにより、人にぎわう楽しい集合住宅を考える。全体としては、void(public)とmass(private)の組み合わせによって、それぞれの人がお気に入りの場所を見つけることが出来るような都市の中の庭(オープンスペース)となるようなまちの提案をする。





住宅 集合住宅 敷地全体 沖縄市の中の敷地 と広義に見ていくにしたがって void の public の度合いは高くなっていく。

**人の集まるグリーンベルト**  
敷地の中央にみどりを配置し、人や風が通り抜けられるようにした。敷地の全体を歩いてまわることができ、各所に設けられた森・広場・庭で交流できる。

**歩きまわる楽しさ**  
敷地を囲うように配置された建物を自由に歩き回り、お気に入りの場所を探す楽しさがある。人それぞれ色々な楽しみ方が出来るようになっている。

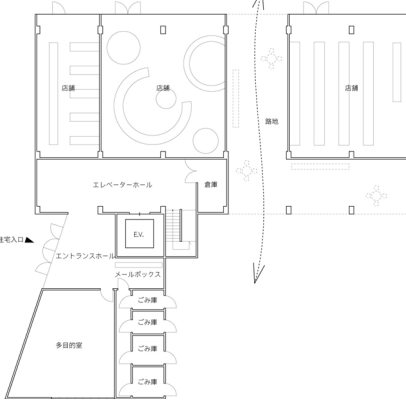
**風の通る集合住宅**  
集合住宅には所々に sky void が設けられ、風が通り抜けられるようになっている。また、視覚的にも圧迫感を和らげる。

**空でコミュニケーション**  
集合住宅に設けられた sky void は、住人が自由に使うことができる sun park とし、おしゃべりをしたり待ち合わせしたりと、路地的な場所である。

**波に乗って公園へ**  
集合住宅とグリーンベルトは wave bridge で結ばれており、直接アクセスすることができる。くねくね波打つその形は公園のアクセントとして場を引き締める。

**自由な使い方ができる箱**  
戸建住宅は5つの箱で構成されている。各住戸にある赤い箱の使い方がそれぞれ違ったものになることによって、生活空間がにぎやかに豊かに変化する。

**外部を内部に取り込む住宅**  
各住戸には土間があり、共用廊下とルーバーによって仕切られており、自由に視線や太陽光・風などを調節することができる。



**路地のある集合住宅**  
細路地のような空間を店舗と店舗の間に設け、コミュニケーションの場として開放する。路地を通りグリーンベルトへ行くことができる。